

差出人: 樋口明朗 <ar-higuchi@jcom.home.ne.jp>
送信日時: 2020年10月15日木曜日 8:32
宛先: 樋口 明朗 1
件名: 西東京三田会通信第98号

西東京三田会通信第98号(2020.10.15)

本通信は西東京三田会にメールアドレスを開示してくださっている方に配信しています
(内容はホームページ <http://nishitokyo-mitakai.net/>との重複分を多く含みます)

以降の配信停止をご希望の方は、ar-higuchi@jcom.home.ne.jp へ

☆:::INDEX:::☆

- I. 活動関係情報、会員動向、その他
- II. 特集：コロナ禍のなかでの会報 : 本「通信」はネタに苦労
 - 1. 三田ジャーナル : 慶應連合三田会機関紙
 - 2. 三田評論 : 慶應義塾機関紙
 - 3. 慶應義塾メールマガジン : 慶應オンライン登録者へのメルマガ
 - 4. 月曜会通信 : 長老先輩当会会員Y氏のゼミ関係会員会報
- III. 連載：会員識者(中村邦彦医師)による新型コロナウイルス情報(2)

☆:::☆

◎◎◎.*.....*°◎◎◎

I. 活動関係情報、会員動向、その他

◎◎◎.*.....*°◎◎◎

1. 2021年の新年会

最終結論が出ていないが役員会の開催を促す論も出ていましたが
原状の認識、複数副会長の意見を鑑み「実施せず」と決められました
飲食を伴う懇親は三密の最たるものです
全会員への不実施の通知は改めては致しません
ご案内が無いことで実施はされないものと理解していただきます

2. 東京6大学野球秋季大会

コロナ禍で秋季も変則的開催を強いられています
秋季は10試合ポイント制(勝利1、引き分け0.5)で行われています
17・18:対明治、24・25:対法政、11月7・8:対早稲田 です
観客上限10000人(春は3000人)内野席のみ、外野席で応援団認可
たまたま会場で会員3人以上が相互に確認されたとき会活動と見なします

3. 箱根駅伝予選会

17日行われますが、今年は「無観客」です
応援を楽しみにされていた会員も居られますがコロナ禍中で仕方ありません

4. 麻雀の会 2020年最終回

10月18日の会は中止をお知らせしてありますが、
12月20日の2020年最終回も危ぶまれます、後日ご連絡します

5. 高橋敬一氏亡くなる

たけのこ掘りの会でお世話になった塾大先輩(S17法)下保谷屋敷林のお頭
高橋敬一様が102歳で亡くなりました
市外にお住まいで非会員でしたが、筍掘り会にはいつも来てくださいました
ご冥福をお祈りいたします

.....

II. 特集：コロナ禍のなかでの会報

本「通信」もメールマガジン形態をとった月次「会報」（のつもり）です
親睦が主目的の会で、会内の「活動」の予定や実績などで成っています
オンライン活動は育っておらず当会の活動は必然的に三密を伴います
コロナ禍に収束の兆しが見えぬ今、活動の空白でネタがありません
関係する会報はどうなっているのでしょうか

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

1. 三田ジャーナル : 慶應連合三田会機関紙 (隔月刊)

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

2020年5月 第312号 (広告ページ含め全15ページだて)

- ・新会長紹介
- ・今年度連合三田会大会中止のお知らせ
- ・慶應義塾 TOPICS
- ・三田会結成
- ・卒業25年
- ・三田会だより 等ほぼ従前の構成

最終ページ下部半分が会務委員会報告で最下部「お知らせ」が2項あり

2項目は ◇三田ジャーナル休刊◇ で

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、イベント等が開催中止および
開催未定のため、7月号は休刊とさせていただきます。(以下省略)とある

2020年9月 第313号 (広告無しの7ページだて)

- ・会長・塾長対談「長谷山塾長に聞く」
 - ・事業報告
 - ・お知らせ のみ
- 編集子2010年(初めて)以降はじめてみる少ページ構成である
新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急支援の9月現在値あり
なお、会長・塾長対談は前号でも報告、pdfあり

コロナ禍の影響は明らかに感じられます

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

2. 三田評論 : 慶應義塾機関紙 (毎月一回一日発行)

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

本誌の内容は活動の計画・実績などを主体とするものではない

時流に左右されない部分が多く、特集でほぼ全100ページの半分、特集は

2020 6 No.1245 福澤諭吉と統計学

2020 7 No.1246 人口減少社会のモビリティ

2020 8・9 No.1247 コロナ危機と大学

2020 10 No.1248 SFC30年

(2020 11 No.1249 感染症と社会 1248号で予告)

特集はすでに長期的に組まれていて原稿依頼は早くからされているだろう

時流テーマである1247 1249はそこに挿入されたのだろう

時流テーマ以外は直近の世情状況には内容が影響を受けない

時流テーマもテーマ自身を取りあげることでむしろ紙数を大きくとっている

コロナの影響は少ないようです

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

3. 慶應義塾メールマガジン : メルマガ (毎月15日配信)

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

例えば、9月号 9月15日配信のコンテンツは

★ Keio Top News

★ 【特集】オンライン学園祭

★ 話題の人 星出彰彦君(塾員) 3度目の宇宙飛行へ

★ ちょこっと紹介 ドローンを使った海岸パトロールを実施

★ 塾員の皆様へのお知らせ

Keio Top News は当「通信」的にイベント実績などが詳細をHPに投げる項目数はさすがに少なめになっている、下記のように。

【News】2020年度 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部入学式

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/9/9/27-74946/>

【News】SFC オンライン・オープンキャンパス 2020 開催

<https://www.sfc.keio.ac.jp/news/014854.html>

【News】真夏の東京六大学野球 2020 春季リーグ戦

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/8/18/27-74193/> などだ

☆【特集】オンライン学園祭 の記事は面白い

例年三田祭をはじめとして、5つのキャンパスで6つの学園祭が行われていますが、今年度はいずれもオンラインで開催することとなりました。で始まり

今後は9月27日矢上祭、10月10日SFC秋祭と芝共立祭、10月17～18日四谷祭、11月22～23日三田祭と続きます。矢上祭は新たな価値の創造・発信の場となるように、秋祭はSFCの魅力である多様性を感じて心躍らせることができるようにとそれぞれの学園祭実行委員会がコンセプトをもって準備・運営にあたります。学生たちの挑戦にご期待ください。となっている

そのほか、

話題の人 星出彰彦君（塾員） 3度目の宇宙飛行へ 以下続いている

慶應義塾メールマガジンは慶應オンライン登録者に配信されている塾員で、慶應オンライン未登録者は、「慶應オンライン」検索で登録できる

コロナの影響は、多少は被るものの、記事の対象はあるようです

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

4. 月曜会通信 : 長老先輩会員Y氏のゼミ同窓会報 (毎月初刊)

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

凄い の一語に尽きる手作り会報、9月号が“第300記念号”！
毎月作成配布、300か月＝25年、本メルマガ通信の3倍以上
70部位お作りの由だが、立派な用紙の表紙で、B6判、通常40ページ程
300号記念号には別冊2点と1点の論文がついていた
これを、編集から打ち込み、印刷、製本、会員への送付までY氏が全て実施
全て自宅での手作り、頭が下がるとしか言いようがない

最新の10月号（第301号）の主な内容は

- ・10月例会について
- ・フランス旅行で初めて観たこと感じたこと-3
- ・300号記念アンケート
- ・月曜会の記録
- ・Letters to the Editor

月曜会は経済史の野村・高村・中村ゼミ有志の同窓会で毎月の会がベース
Y氏はこの会の万年幹事として会の切り盛りとともに会報を作っている
(月曜会は連合三田会に登録していない、編集子も未登録三田会所属もある)
毎月の「会」＝活動、はコロナの影響で3月以来休会していますが、

コロナ禍の会報への影響は下記により影響がなさそう

- ・ 会が休会でも対象テーマの原稿は郵送やメールで入手できている
- ・ 会員がほぼ固定的（当会は出入りがある）で原稿入手が信頼できる
- ・ 原稿対象がアカデミックな論文やアンケート等で、時流に捉われない
- ・ Y氏が膨大な過去情報や、メールやりとりなど駆使しての編集力抜群

西東京三田会通信の編集・配信者として畏怖を感じます

◎◎◎. :* * : ° ◎◎◎

Ⅲ. 連載：会員識者（中村邦彦医師）による新型コロナウイルス情報（2）

今回は検査についてです。COVID19 の検査としては PCR 法、抗原検査、抗体検査があります。

まず、報道でもさんざん聞いたことがある名前の PCR 法ですが、これはポリメラーゼ連鎖反応 (Polymerase chain reaction) の略称で、人体内のウィルスの遺伝子を見つけ出す検査です。ウィルスの中の微量な遺伝子を PCR にて増幅させて検出するのですが、その感度は 59-70% くらいといわれます。これでも、感度としては抗原検査より高いので COVID19 の検査としては最も信頼されている方法となっています。鼻や咽頭の拭い液から検出しますが、発症から 9 日以内であれば唾液での検査も可能です。報道では気軽に PCR 検査と言っていますが、費用は高く、人手、時間のかかる検査方法です。忘れてはいけないことは前述の通り 30% 程度は見逃される可能性があるということです。すなわち PCR 検査で陰性でも感染していないことの絶対的なお墨付きにはならないということになります。ですから濃厚接触者は PCR 検査で陰性であっても隔離になるのです。芸能人が自費で PCR 検査して陰性なので私は絶対大丈夫ですというような話がされていたりしますが、それは誤解といえます。日本の PCR の検査数が少ないとテレビ報道では連日のように批判されていますが、費用も人手もかかる検査をやみくもに増やすことがいいとは言えません。症状もなく濃厚接触でもないのにただ心配だから PCR 検査をするというのは意味がありません。過去 2 週間の行動履歴、現在の症状にかんがみて医療機関が総合的に判断して疑わしい集団に対して、PCR 検査を行うのが良いと言えます。日本の PCR 検査数は当初は確かに不十分でしたが、現在ではほぼ必要かつ十分な検査量であると考えられます。トランプ大統領は米国の PCR 検査数が多いことを得意気に話していますが、米国の感染率、死亡者数を見ればこれがあまり意味のないことは分かると思われまます。

抗原検査はウィルスが感染した細胞が特異的に産生する抗原をこれに対応する抗体にて検出する方法です。鼻や咽頭の拭い液を用いて 30 分ほどで簡単な検査キットでできるもので PCR 法と同様に確定診断に使用できますが、ウィルス量が多くないと検出できないので PCR 法より検出力は劣ります。

抗体検査は、過去に COVID19 に感染していたかを検査するものです。感染すると免疫反応が起こり体内で抗体が産生されるので、血液から測定します。抗体は COVID19 に感染して約 2 週間経つとほぼ 100% 近く検出できますが、それ以前では残念ながら 50% 程度とされています。したがって COVID19 に現在罹っているかの診断には使用できません。人口のどれぐらいが感染したかの疫学調査に用いられていますが、感染後 2 カ月ぐらいすると抗体が消失する人もいることが分かってきて調査結果の判断は難しいものがあります。

ではどの検査法も絶対的な感染していないことの証明にならないならば、どうすればよいかわかりますが、それは隔離ということになります。このウィルスは発症 2 日前から感染力があり、発症の 7-10 日後には他人への感染力はなくなることが分かってきました。ですから、濃厚接触者で無症状の場合には隔離開始から 10 日で隔離解除、発症者では発症から 10 日経過し、かつ軽快して 72 時間経過すれば隔離解除となります。以前は PCR 法にて 2 回検査して陰性であれば隔離解除となっていました。現在は PCR 検査を行わなくても隔離解除になります。というのも発症してから 10 日経てば PCR 検査で陽性でも感染しないことが分かってきたからです。もう感染力が無くても体内にウィルスの遺伝子が残存してしばらく PCR 検査で陽性になることがあります。これは COVID19 だけの特殊なことではなく、以前から知られている現象です。例えば、「はやり目」の俗称で知られる流行性角結膜炎は治癒しても、感染力の無いウィルスの遺伝子が角膜に残存してしばらく混濁が残り見にくさが続くことはよくあります。また COVID19 で入院していたからと言って、隔離解除になった方をいつまでも遠ざけることは全く必要のないことです。

西東京三田会 <http://nishitokyo-mitakai.net/>

本メールに掲載されているすべての記事等の文責は樋口にあります。